

特別講演 1

「病態からみた糖尿病薬物療法と

SGLT2 阻害剤のポジショニング」

みながわ内科クリニック院長

皆川 冬樹 先生

糖尿病の薬物療法は一見複雑化しているようにみえますが、患者の病態に応じた選択肢が増えたともいえます。

しかし、病態を評価するツールが増えたことが、逆に一般内科医にとって病態を把握することを困難にしているのではないのでしょうか。また、治療の目標として、HbA1c 低下だけでなく、血糖変動を抑える、低血糖を防ぐ、体重増加を来さない、心血管イベントを抑制する、など多々考慮しなくてはならなくなり、糖尿病治療に困難を感じていないのでしょうか。

DPP-4 阻害剤の登場で一般内科医が安全に一定の血糖コントロールを得やすくなりましたが、使いにくいとされている、Glinide 薬や Pioglitazone などはある面では DPP-4 阻害剤に勝る効果を示す患者もいます。

DPP-4 阻害剤および新規糖尿病治療薬として登場した SGLT2 阻害薬を含め実際の臨床における糖尿病治療薬の選択についてわかりやすくお話ししたいと思います。